

② 構成的グループ・エンカウンターの実践例

ここでは、4回目に実施した「立場かわれば」の様子を各段階ごとに紹介する。

《ウォーミングアップの段階》

最初に演習のねらいを説明した後、ウォーミングアップを実施した。

2人一組になって互いに向き合い、一人は立ち、もう一人は座って見つめ合う。役を変えて再度行い、2つの立場で感じたことを話し合う。

《演習内容の説明の段階》

演習内容の説明をした後、事前に作っておくシナリオが完成していない生徒を確認し、少し時間を取って全員がシナリオを完成させるようにした。

その後、関連ある内容（例えば教科、野球チーム、ドラエモンなど）のカードを持っている生徒同士が集まる『仲間を探せ』というゲームを通して、演習のためのグループ（4人）をつくった。

《演習の段階》

各グループごとに、グループ内の一人のシナリオを選び、配役を決めてそのシナリオを再現した。

役になりきって演じているグループを一つ選び、全体の場で実演させ、生徒の関心を高めさせた。

再度配役を変えて、順次繰り返した。ここでは、恥ずかしがらないで、できるだけ役になりきることを助言した。

演習が終わってから、グループ内で「役を演じた気持ち」について話し合った。その時の担任と生徒とのやりとりは、次のようなものであった。下のTは教師、Sは生徒（C男はそのま）を表している。

T：みんな役になりきって演じているので、先生は大変感心しました。野球チームのグループは、どんなシナリオでしたか。

S1：先生が生徒に注意をしている場面なんです、生徒の方はあまり反省していない場面です。

T：C男君は、どんな役をやったのかな。

C：関係ないので、逃げていく生徒の役をやりました。

T：やってみてどんな気持ちになりましたか？

C：「ごめんなさい」とは言っているんですが反省の気持ちは全くありませんでした。

T：反省の気持ちがない、なるほどね。ところで、先生役をやった時はどうでしたか。

S2：ぼくは、おもいきり怒ったので、スカッとしました。

S3：私は、怒っている時には、いい気分ではありませんでした。生徒役の人が、話を聞いていないのが伝わってきて……。怒られていやだろなんて考えたりして……。

T：そう、人によって感じ方が違うのかな。

C：先生役をやった時、ぼくもS2君と同じように感じたんだけど、S3さんの発表を聞いてその気持ちがわかるような気がします。そんなふうにも考えられるんだ。

T：なるほどね……。

《振り返りの段階》

演習を通して感じたことを発表させながら、演習の振り返りを行った。発表された主な感想は、次のようなものだった。

○ いろいろな立場に立つことによって、相手の気持ちがわかるようになった。

○ 同じ役をやっても、人によって感じ方が違うことに気づいた。

○ C君の発表したことが、よくわかるような気がした。

○ 後輩役をやって、いい感じがしなかった。後輩と話す時には、気をつけなければいけないと思った。

(3) 小集団による話し合いの実践例

ここでは、『立場かわれば』の後で実施した小集団による話し合いの実践を紹介する。工夫した点を、事前・話し合い中・事後の各段階に分けてまとめて